

第1問

A

問1 《ポイント》 i の読み方でテストによく出るのは次の2つの読み方。

(1) [ai]…「アイ」 📌 頻度第6位!

(ex) decide[ディサイド]「決める」 lively[ライヴリー]「生き生きとした」
triumph[トライアムフ]「大勝利」 isolate[アイソレイト]「孤立させる」
island[アイランド]「島」 minor[マイナー]「少数の」「小さい方の」

(2) [i:]…「イー」

(ex) police[ポリース]「警察」 routine[ルーティーン]「お決まりの」

📌 このうち(1)、つまり「アイ」と読めるかどうかを試す問題が多い。

問2 《ポイント》 過去形の ed の読み方。

(1) ed の前に **t** 又は **d** があると [id(イド)]

(ex) exciteed[エキサイイド] wanted[ウオンテイド] ended[エンドイド] bonded[ボンドイド]

(2) ed の前に「フ」「ク」「シュ」「チ」「プ」「ス」があると [t(ト)]

(ex) laughed [ラフト]
asked [アクト]
smashed [スマシュト]
touched [タチト]
stoped [ストプト]
promised[プロミスト]

(3) 上記以外の ed は全て [d(ド)]

(ex) lived[リヴド] managed[マニジド] happened[ハプド]

(4) ただし上記のルールは、次のような形容詞の場合には当てはまらない。

(ex) learned [ラニド] (形)「教養のある」 wicked [ウイキド] (形)「邪悪な」
naked [ネイキド] (形)「裸の」 wretched[レッチド] (形)「哀れな」「ひどい」

問3 《ポイント》

📌 「基礎からわかる！発音マスター講座」

(1) ar は[ɑ:ɾ]と発音するのが基本。

📌 例外として以下に注意。

warm [wɔ:ɾm(ウアム)]「暖かい」 war [wɔ:ɾ(ウア)]「戦争」
wharf [wɔ:ɾf(ウアフ)]「波止場」 care [keəɾ(ケア)]「世話をする」
barren[bæɾən(バラン)]「実を結ばない」「不毛の」 award[əwɔ:ɾd(アウアード)]「賞」

(2) 「ir/er/ur+子音」は、[ə:ɾ]と発音するのが基本。

(3) work は[wɜ:ɾk]。📌 w の後の or は[ə:ɾ]。 (ex) wɜ:ɾd, wɜ:ɾld, wɜ:ɾʃɪp

(4) cur の基本は以下の二つの読み方。

① [auəɾ] …「アウアー」

② [ɔ:ɾ] …「オウア」

📌 上記のルールの例外として以下がある。

(ex) jɜ:ɾni [dʒə:ɾni(ジャアニ)]「旅行」 jɜ:ɾnəlɪst [dʒə:ɾnəlɪst(ジャアナリスト)]「ジャーナリスト」
tɜ:ɾɪzəm [tuəɾɪzəm(トウアリズム)]「観光事業」 tɜ:ɾ [tuəɾ(トウア)]「ツアー」
tɜ:ɾɪst [tuəɾɪst(トウアリスト)]「観光客、旅行者」

B 《ポイント》 選択肢中のカタカナ英語(関連)の比率に着目せよ!(12/16)

advance danger engine limit fundation cpinich register
agency introduce champicnship delivery supermarket

※カタカナ英語は第一音節にアクセントが来るものが多い。

會「基礎からわかる!リスニングマスター講座」36.~54.

第2問

會「センター文法語法スーパーチェック」

A

問1 《ポイント》 「高い」「安い」

會「スーパーチェック」90ページ

- ① 「高い」「低い」を「high ⇔ low」で表す名詞。
 値段[price] 給料[salary] 賃金[pay / wage] 温度[temperature]
 収入・給与[income / salary]
 會「salary」「incrcr」は「large⇔small」を用いてもいい。「(値段が)手ごろな」は「reasnable/affcrdable」。
- ② 「品物」などが「高価だ」「安価だ」という場合には「expensive(高価な)」「cheap / inexpensive(安価な)」で表す。

問2 《ポイント》 名詞と間違えやすい副詞

會「スーパーチェック」75ページ

upstairs「二階に(上の階に)」 indoors「屋内で(に)」 here「家に」 downtown「繁華街に」
 downstairs「下の階に」 outdoors「屋外で(に)」 next door「隣に」 cverseas「海外で(に)」
 abrcad「海外へ(に)」

會here は go, come など、「発着往来」を表す動詞と共に用いる場合、副詞になる。

(ex) I went [×to] abrcad. 僕は外国に行きました
 He carried the bag [×to] upstairs. 彼は二階に(まで)カバンを運んだ

會副詞は前置詞を必要としない。上例でも前置詞を入れるのは間違い。

問3 《ポイント》 目的語に動名詞だけをとる他動詞

會「スーパーチェック」30ページ

會これらの動詞の頭文字をとって「リックダメガフェプス(RICKDAMEGAFEPS)」と覚える。

Risk「危険を冒す」	Resist「抵抗する」	Enjoy「楽しむ」
Imagine「想像する」		Give up「あきらめる」
Consider「考慮する」	Complete「し終える」	Admit「認める」
Keep「し続ける」		Adcre「～するのが大好きだ」
Deny「否定する」	Delay「遅らせる」	Finish「終える」
Avoid「避ける」	Advise「忠告する」	Escape「逃れる」
Mind「気にする」「いやだ」	Miss「し損なう」	Put off [=Postpone]「延期する」
		Stop「やめる」
		Suggest「提案する」

會これら以外ではquit(やめる)などがある。

問4 《ポイント》 above「～を超越して」 =beycnd

會「スーパーチェック」28ページ

(ex) The lecture was above[beycnd] me[my understanding].

その講義は私を超越している → 私には理解できない

She is abcvr telling a lie.

彼女は嘘をつくことを超越している → 決して嘘はつかない

問5 《ポイント》 過去完了(had+p.p.~)の頻出パターン。 罫「スーパーチェック」21ページ

「明確な過去の一点」を示す語句と「時の幅」を示す語句が文中にあった場合。

(ex) Mark had been waiting for an hour when Mary arrived.
 [時の幅を示す語句] [過去の1点を示す語句]

メアリーが到着した時点でマークは1時間待っていた

問6 《ポイント》 ()S+V V~型 罫「スーパーチェック」48~49ページ

(1)文法問題で空欄の直後が「S+Vt V~」(Vtの部分には「言う(say)」「思う(think, know, believe, suppose等)」型の動詞がくる)という構造になっていたら、空欄には主格の関係代名詞が入る。

主格 + S+Vt+V

(ex) I saw a woman who I thought was a friend of my mother's.
 主格 S Vt V

母の友人だと私が思った女性を見かけた

罫要するに、関係代名詞の格は、後続の文の中の欠けている格と一致する。

(2)次に関係詞の前の形(先行詞の有無)について、先行詞を必要としない関係代名詞は2つのみ。

①what

②関係代名詞+ever (ex) whoever, whichever, whateverなど

問7 《ポイント》 頻出! first関連のイディオム 罫「スーパーチェック」97ページ

(1)at first hand 「直接、じかに」

(2)at first sight 1.「一目で(の)」 2.「一見したところでは」

(3)for the first time 「初めて」

(4)in the first place 「まず第一に」

=to begin[start] with =first and foremost
 =first of all =firstly

(5)at first 「はじめのうち(は)」 罫最頻出!!
 =the first time

(6)The first[last] time S+V~ 「はじめて[最後に]~した時」
 [接]

(7)This is the first time S have+p.p.~ 「Sが~するのは今回がはじめてだ」

問8 《ポイント》 「知覚動詞」が作る「SVOC」 罫「スーパーチェック」16ページ

知覚動詞+O+C C=(1)動詞の原形
 (2)現在分詞
 (3)過去分詞

「OがCするのを~する」
 「OがCしているのを~する」
 「OがCされるのを~する」

④Cに「to do[原形]～」がくるとはしない。

(ex) I saw her go[×to go] there. 私は彼女がそこに行くのを見た

④このような知覚動詞には以下のようなものがある。

see「見る」 feel「感じる」 watch「見る」 perceive「気付く」 hear「聞く」
smell「臭う」 notice「気付く」 catch「目撃する」 imagine「想像する」

④look を用いたイディオム。

「スーパーチェック」81ページ

look over (1)(自)「ざっと目を通す」

(2)(他)「～を調べる」 =examine[look into/check]

look up A(単語等) in the dictionary 「Aを辞書で調べる」

cf;consult a dictionary for A「Aを調べるために辞書を引く」

consult with A(人)「Aに相談する」

look up to A 「Aを尊敬する」 =respect A

⇔ look down on A「Aを軽蔑する」

⇔ despise A「Aを軽蔑する」

look after A 「Aの世話をする」 =take care of A

=care for A

cf;keep an eye on A「Aから目を離さない」

look for A 「Aを捜す」 =search for A

look to A(人) for B(物事) 「AにBを頼る、当てにする」

問9 《ポイント》 時に関する接続詞の重要構文

④ 「スーパーチェック」62ページ

It will not be long before S+V…。 「まもなく…するだろう」

(ex) It won't be long before he can speak English. won't = will not
すぐに彼は英語を話せるようになるだろう

問10 《ポイント》 その他の助動詞と助動詞を用いた慣用表現

④ 「スーパーチェック」42ページ

would rather[sooner] do[原形]～ (than do[原形]…)

「(…するより)むしろ～したい」

(ex) I would rather sleep than watch TV.
テレビを見るよりむしろ寝たい

B

問1 《ポイント》

(1) so that S +may[can/will]+V[原形]～ 「S+Vが～するために[できるように]」

(ex) My mother woke me up at seven so that I could catch the train.

④ 「スーパーチェック」59ページ

(2) get to do[原形]～ 「～するようになる」

④ 「スーパーチェック」86ページ

(3) one another 「お互い」 =each other

④ 「スーパーチェック」54ページ

④ 「one another」「each other」は共に「お互い」という意味の代名詞である。したがって、前置詞の後に置かれたり、他動詞の目的語にもなれる。

「お互いに」という副詞だと勘違いしている受験生がいる。要注意である。

(ex) They talked with one another[=each other]. 彼らは互いに語り合った
(前) (代名詞)

【解答】 ~ so that you all can get to know each other quickly.

問2 《ポイント》

(1) 「the+序数+最上級」で「○番目に~」。

(ex) In 1990 newspapers were still **the second most frequently** used of the media.

1990年において、新聞はメディアの中で以前として2番目によく利用されていた

of=among:「~のうちで」

📖 「ビジュアル型問題頻出表現のまとめ」13ページ

【解答】 I was the second highest scorer on the team.

問3 《ポイント》

(1) available は「利用[対応]できる」。

(2) A(人) is familiar with B(物・事) 「AはBに精通している[をよく知っている]」
B(物・事) is familiar to A(人) 「 " (BはAによく知られている)」

📖 「スーパーチェック」104ページ

(3) those who+V~ で「~する人々」。those は the people の代用。

📖 「スーパーチェック」52ページ

(4) give A(物) to B(人) で「AをBに与える」。

【解答】 Electronic stores always have experts available to give advice to those who aren't familiar with using computers.

C

問1 《ポイント》

流れから空欄直前の it は「ジャズコンサート」を指していると見ることができる。

問2 《ポイント》

📖 「スーパーチェック」24~26ページ

(1) 文脈から過去の内容を表したい。

(2) without A で (仮定法で用いて) 「もしAがなければ[なかったなら]」。

問3 《ポイント》

📖 「スーパーチェック」50ページ

This[That] is why[the reason] S+V~ 「こ[そ]ういうわけで~」

(ex) He caught cold. **This is why** he cannot attend the meeting.

彼は風邪をひいたのです。こういうわけで彼は会合には出席できません

ただ、これらとよく似た紛らわしい構文として、以下のような表現がある。

This[That] is because S+V~ 「**というのは~だからだ**」

(ex) He cannot attend the meeting. **This is because** he caught cold.

彼は会合には出席できない。というのは彼は風邪をひいたからだ

この紛らわしい両者の簡単な見極め方は以下の通り。

①This[That] is why は前後を「原因と結果」の関係で結びつける。

He caught cold. This[That] is why he cannot attend the meeting.
[原因] ⇒ [結果]

②This[That] is because は前後を「結果と原因」の関係で結びつける。

He cannot attend the meeting. This[That] is because he caught cold.
[結果] ← [原因]

～第二問B・C(整序英作文問題) 解法のまとめ～

(1)近年は、問題文が会話形式になってきている。最頻出ジャンルは

- ①イディオム・構文
- ②動詞の語法
- ③語順・英文構成

(2)まず問題文と選択肢を眺めて、**使えるようなイディオム・(動詞などの)語法・構文はないか調べる。**

●問題文中の、下線部との切れ目にあたる語句をチェックするのも忘れずに。

(3)もし見つければ、それを文の骨組みにして、他の選択肢をその骨組みの中に当てはめていく。

(4)使えるようなイディオム・構文などがなければ、「英文法力駆使型」だとみなして文法力を駆使してつなげられるものを結びつけていく。

骨組みとなる「S+V」、特に「V」の決定が解法への近道になることが多い。

(5)動詞の語法やイディオム・構文が最頻出だが、語順・英文構成に関連した問題も要注意。これについてのルールもしっかりまとめておこう。

(6)特にCの場合、

- ①そこまでの会話の流れ(を追えているか)も、解答に至る重要なポイント
- ②問題部分の後に更に英文が続く場合は、その部分が解答に至るヒントになる
- ③2つ目、3つ目のグループの方が解きやすければ、そちらからまず解く

第3問A

～第三問A(不適切文削除問題) 解法のまとめ～

(1)解法のヒントは「論理」「指示語」「文脈」の3つ。

(2)「文脈」が解答に至る最大のヒント。

(3)「文脈」について。

- ①「文脈がうまく合っている【流れている】」というのは、「そのパラグラフ[段落]で語られる『テーマ』『主張』(特に『テーマ』)と関連性をもって(パラグラフ内の)各文章がつながっている【流れている】」ということ。

- ②「テーマ」が示される場所。
 1.パラグラフの冒頭部
 2.逆接語で始まる第2文
- ③問題文を読む場合、上記の部分にまず着目し、「文脈」を追う[の流れを読み取る]カギとなる「テーマ」をしっかりとキャッチすることが大切。
- (4)問題を解く際、まず冒頭部などから「テーマ」をキャッチできたら、四つの選択肢に軽く目を通してみる。もし「テーマ」と関連性を持たない選択肢があれば、それが正解とわかる。
- (5)「論理」について。
 ①文章同士は論理的(「順接」「逆接」「因果」のいずれか)にしか結びつかない。
 ②頻出の論理マーカーとそれが導く論理をおさえる。
 ⇒「頻出論理マーカーのまとめ」をHPからDLして知識を深めよう。
 ③パラグラフ冒頭文の後、論理マーカーなしで第二文が続く場合、その第二文は
 1.第一文とはイコール関係(具体例・言い換えなど)になっている
 2.第一文とは因果関係(多くは因、つまり論拠)になっている
 可能性が高い。
- (6)「指示語」は以下に注意する。
 ①「冠詞」の変化。
 ②「名詞(→代名詞)」の変化。
 ③「副詞」の変化。
 ④直前の内容の具体例[理由]であることを示す語句がある。
 1.固有名詞
 2.数詞
 3.(そこまでの流れとは一見無関係に見える)突然関係ない話
 愈ただし、突然関係ない話が始めれば、それは正解(不適切文)の可能性が高いとは言える。突然関係ない話が正解にならない(適切文である)とすれば、それは具体例としてそこに置かれているとみる、ということ。
- (7)「あ、これが正解(不適切文)かな!!」と予測できた場合でも、念のために[確認・だめ押し]のために、もう一文読んでみるという作業はしてみた方がいい。

問1《ポイント》

私達は新しい環境で不慣れな物事に会おうと、自国の中でさえもカルチャーショックを経験することがあるかもしれない。ツバサが家族から離れて大学生活を始めたとき、彼にはすべてが刺激的で新鮮に思えた。がその後、自分の周囲について予期しなかった不安を感じ始めた。

①彼の地方のなまりと言葉遣いのせいで、人々が時々自分を誤解することに気づいたのだ。②彼が一人っ子なので、両親が彼がいなくてとても寂しく思っているのを彼は承知していた。

③彼はクラスメートの多くが自分の聞いたこともない、様々なことを高校で学んできたことにもまた気付いた。みんなが自分より賢く、大人びていて、おしゃれでさえあるように思えた。

④自分がすべてにおいて、もうかなり遅れているのではないかと不安だった。しかし、他の学生のほとんどが多かれ少なかれ自分と同じ不安感を抱いていることがわかった。今では、ツバサはそうした気持ちもなく、大学で楽しく学んでいる。

問2 《ポイント》

トマトは野菜なのか？果物なのか？ この問題に関して1890年代に合衆国で裁判沙汰があった。その当時、野菜の輸入に対しては税金を払わなければならなかったが、果物の輸入に対してはそうではなかったのだ。生物学的には、果物は花の根元の部分から育ち、種を含むものである。①この科学的定義からすれば、トマトは、キュウリやカボチャ、ピーマンと同じく果物である。②科学が示すところに反して、ほとんどの人はトマトを野菜と考え、野菜として使っている。③たとえば、国によってはトマトは「黄金のリンゴ」とか「愛のリンゴ」という名前を与えられてきた。④トマトは多くの野菜のように調理しても、あるいは生のままでも食べられているが、伝統的に果物と異なり、デザートに出されることはない。合衆国の法廷は、ほとんどの人がトマトを野菜と考えているという単純な事実に基づいて、それは野菜であるという結論を下したのであった。

問3 《ポイント》

世界中でますます高まる動物性たんぱく質の需要の問題に応じて、昆虫を豚や鶏、牛の代替食料源として利用する様々な利点を話し合うために会議が開催された。①あまり知られていないが、昆虫はタンパク質やビタミン、ミネラルをたっぷりと含んでいるので、非常に健康的な食べ物なのである。②昆虫は何百万年もの間存在しており、恐竜とも、その後はごく初期の人類とも共存していた。③昆虫を育てることは、昆虫があまり場所を取らず、あまり食物を食べず、あまり温室効果ガスも出さないのので、環境にやさしいものになりうる。④大半の昆虫が、水がほとんどなくても生き延びられるため、水不足が厳しい地域には理想的な代替食となる。昆虫を食用にする利点が多いことは証明されている。ただし昆虫を食べることについて人々の気持ちを変えるには、時間がかかるだろう。

第3問B

～第三問B(意見要約問題) 解法のまとめ～

- (1)まず日本語の問題説明部分から「テーマ」を確認する。
- (2)(第一発言者の発言の前の)冒頭の数行は、読まなくていいことがほとんど。
☞つまり「テーマ」が確認できたら、後は発言者の発言に集中すればいい。
- (3)第一発言者に対する司会者の発言部分を読み、司会者の意見のまとめ方[要約の仕方]をチェックする。まとめ方の種類は以下の通り。
 - ①単純に発言者の意見を要約する。 ☞第一発言者に対しては①のまとめ
 - ②複数の発言者の意見を一つに要約する。 方が大半。
 - ③発言者の意見を裏返して要約する。
(ex)「ということは〇〇してはいけない[〇〇するのは反対だ]ってことですね」
- (4)次に第一発言者の、ここを読む。
 - ①**第一文[冒頭文]**
 - ②**最終文**
☞第一文[冒頭文]、最終文が(指示語などが使われ)内容を十分把握できない場合は、その前後を読むのはかまわない。
 - ③**逆接語**で始まる(もしくは逆接語が挿入されている)英文
 - ④**「私は思う」系のフレーズ**を含む英文
 - ⑤**強制力の強い助動詞**(must, have to, should など)を含む文

- (5)上記の箇所を読んで、発言者の主張が読み取れたら、その時点で選択肢を読んで正解を出す。
- (6)上記を読んでも発言者の主張が読み取れない時は、以下のフレーズを含む文が発言中にないか見てみる。
- ①主観的な判断(「良い」「悪い」など)を表す形容詞を含む英文
 - ②For example[instance](例えば)、For S+V~(というのは~だからだ)といった具体例や理由[論拠]を示す語句の直前
 - ③「~のように見える[思われる]」系のフレーズを含む英文
- (7)この作業をそれ以降も繰り返す。
- (8)正解の見つけ方は、(迷ったら)「消去法」がベスト。
 ④他のすべての設問においても、「消去法」的選択が速解に通じることが多い。

【全訳】

ジェニファー：さあ始めましょう。映像制作クラスのグループプロジェクトのために映画を作ることになっています。グループのリーダーとして、早く始めるほど、私達の映画が良いものになると私は思います。誰か映画のアイデアがある人はいますか。

マイケル：ボクはあります。多くの人は幸せな気持ちになるために映画を見るんだとおもいます。だから、人々を気分良くするようなものを作りませんか。昨年この授業で、ある学生グループが、この大学のバスケットボールチームの記録映画を作りました。3か月の期間にわたって何度も、選手とのインタビューと彼らのトレーニングを撮影したんです。観客にとって、記録映画を見ることは、選手たちの懸命ながんばりと経歴の異なるチームメイトたちの友情、選手とコーチの間の信頼、そして最後に全国大会での勝利の喜びを経験するすべになりました。彼らの驚くべき勝利の物語は、幅広い観客の心に訴え、映画に関わった誰もが多くの賞賛を受けました。ボクは同じような、懸命にがんばって目標を達成する人々を記録した映画を作りたいと思います。

ジェニファー：ではあなたは、観客は成功をつかむ人々の物語を見るのを楽しむのだということを行っているんですね。

マイケル：その通りです。

キム：スター選手や成功した人々を撮ることはおもしろそうですが、普通の人自身がそうした普通でない物語の中の人々と重ね合わせるの難しいかもしれません。私は、人は自分に関係づけられる映画を見たときの方が満足すると思います。だから、ラブストーリーを好むんです。「どうすれば彼女の注意を引けるだろうか」とか、「どうやって彼をデートに誘い出そうか」とか、「初デートはどこに行こうか」とか想像するのが、人々は好きなんですよ。

メアリー：賛成です。人は、スクリーンの中で、自分がしていると想像できることを、自分になじみがあるからこそ見たいのです。それに、日常的な設定の中で、観客に「もしこうなったらどうする」といった問いかけをすることで、ちょっとしたハラハラ感やドキドキ感を付け加えることもできます。たとえば、キャンパスのどこかで宝の地図を見つけたらどうする、とかいったような。これなら、素敵な、面白い話の出だしになり、ワクワクするような映画になるわ。

ジェニファー：キムとメアリー、あなたたち2人は、平均的な人が自分に結びつけられる状況を持つような映画を作るべきだと考えているのね。

メアリー：その通りね。

タケシ：でも、創作作品としては、製作者独特の視点、つまり世の中に対する独創的な見方を反映させるべきだよ。優れた映画はたいてい、その物語やその語られ方において、監督の創造的な視点を反映している。忘れないで欲しいのは観客だって新奇なものを見たがっていることだよ。だからボクは、ボクらの独創的な視点とはどのようなものになるのかということについて、考える必要があると思う。

アリサ：そうね。普通のを普通に見せても、興味を持ってもらえないかもしれないわ。たとえば、私達は大学生は過ぎない。両親に援助を頼っている人もいれば、初めて自活している人もいる。小さな町から来た人もいれば、大都市出身者もいる。自分の経歴に不安を感じている人もいるかもしれない。こんなことって全部とても普通のこと、あまり特別なことじゃないね。だから、私たちの世界を観客の心に訴えかけるような独特の方法で示すなんてことは可能なの？

ジョン：可能だと思うよ。こうしたことは単独だと特別なことじゃないけど、全部合わせれば作品を独特なものにすることもありうる。それこそ、人々が見たいものだと思う。つまり、人が自分に結びつけられて、それでいて、独特な視点から語られる映画さ。

ジェニファー：うーん、映画について違った考えがいくつかありますが、みんな観客の好みを考えることが映画を作る際に重要だと言っているように聞こえます。

ジェニファー：わかったわ。もっと深くこれについて話し合いたいよ。

第四問A

～第四問A(図表・グラフ型長文問題) 解法のまとめ～

(1)まず本文[問題文]を読む前に設問、選択肢に目を通す。

設問、選択肢に目を通す際、キーワード(と思われる語句)に下線を引いておくといい。下線を引いたキーワードが本文[問題文]中に現れだしたら、そこが設問の対応箇所である可能性が高い。キーワードとは、主要品詞、つまり「名詞」「動詞」「形容詞」「副詞」など。

Ⓢ中でも「名詞」は最大のキーワード。

(設問はしっかり読むべきだが)選択肢の方は

- ①短いものは全部読む。
- ②長いものはキーワードに下線を引くにとどめる。

(2)本文中で行われた調査[研究]、実験の「目的」や「手法」を問うような設問があれば、それに対する対応箇所は、本文[問題文]の前半(グラフや図表が現れる前)にあると見ていい。

(3)設問から、グラフ・図表の対応箇所が分かる場合には、本文を読む前にグラフ・図表中の設問に対応している箇所を確認しておく(分からなくても一応グラフ・図表は事前にチェックしておく方がいい)。

Ⓢグラフ・図表をチェックする際には、まず「タイトル」「横軸」「縦軸」「単位[目盛り]」を確認すること。

(4)図表・グラフが未完成になっていて、その未完成部分が何を指しているかを問う設問の場合、本文中における(未完成部分を完成させる)ヒントは、中盤(からそれ以降)にあることが大半。

(5)内容一致問題の場合は

- ①選択肢は、時間がなかったら読まない(読んだとしてもキーワードに下線を引くくらいにとどめる)。
- ②消去法で正解をあぶり出していく。
- ③(これは内容一致問題以外でも言えることだが)、「最も」「唯一の」「必ず」「絶対」「決して～ない」などの語(要する程度があまりに著しい語)が使われている選択肢は×であることが多い。これを「極論不一致の原則」と言う。

(ex) absolutely「絶対に」	all/every「すべての～」	invariably「いつも」
only「唯一の～」	few/little「ほとんど～ない」	without exception「例外なく」
never「決して～ない」	without fail「間違いなく」	(almost) always「(ほとんど)いつも」
necessarily/certainly/definitely「必ず」		any「いかなる」

(6)次に本文[問題文]の各パラグラフ冒頭文に(長いパラグラフの場合は最終文も)目を通し、全体の「テーマ」「流れ[展開]」を確認する。

⊕ただし「最終パラグラフの後に続く可能性が最も高い話題はどれですか」という設問がある場合は、(いくら短くても)最終パラグラフの最終文を読んでおく。最終パラグラフとの関係は、以下のいずれかの可能性が高い。

- ①イコール関係 ☞ 具体的には「抽象⇒具体例」「言い換え」「並例」
- ②逆[対比]関係 など。①の関係となることが大半。
- ③因果関係

⊕「いくつかの(いろいろな・様々な)」「ある」といった形容詞。

several, different, various, a variety of, some など、「いくつかの(いろいろな・様々な)」「ある」といった形容詞のついた(複数)名詞は、直後で詳しく(具体的に)言い換えられる[説明し直される]可能性が高い。

(7)それが終わったら、その時点の情報で解ける設問、消せる選択肢がないか見てみる。

(8)(部分読みでは)解ききれなかった設問については、キーワードを再度確認し、本文[問題文]中に対応箇所を探し出していく。

⊕この時点では、選択肢も含め、キーワードのチェックする。

(9)その結果、あるをパラグラフ[段落]を全読みしなければならなくなったときは

- ①基本は「読みながら解きながら」。
- ②(その段落を半分近く読んでまだ対応箇所が見つからなければ)その段落の半分で分割し、前半部の情報で解けないか、消せる選択肢はないか見てみる(「分割読み」)。

(10)本文[問題文]を全部読み終えていなくても、正解を出し終えてしまったら、もうそれ以上問題文を読み続ける必要はない。

【全訳】

色というのは、様々な製品を買い求めるときに消費者によって考慮される重要な特徴である。マーケティング会社は、小売店で購買意欲や望ましい雰囲気や色を醸し出せる色を確認しておく必要がある。しかし、個々の品物について、どの色が人気になるかを予想することは容易ではない。というのは、消費者は製品の種類によって、好み異なるからである。ここに報告されている調査を通して、私たちは色が消費者に与える影響に関する理解を深めることができる。

この調査では、研究者たちはドイツの消費者を調べて、回答者が買い物をするとき色が重要

だと考えているか、また様々な製品を買うときに色にどれほど影響されているか、どんな感情と連想が様々な色に関連づけられているかに関する情報を得た。まず、研究者たちはデータを吟味し、買い物をするとき回答者にとって色が実際に重要であることを発見した。彼らの68%が購入しようとする製品を選択するときに色が決定的な要素であると述べたのである。

次に、研究者たちは、消費者が色を重視する程度が購入される製品によって異なるかどうかを調査した。表1は6つの日用品とそれらの製品を購入するときに色を重視した回答者の割合を表している。上位の2つの製品はどちらも回答者たちが身に着けるもので、下位の3つはすべて電子機器だった。合計で36.4%の回答者は携帯電話の色を重視した。これは電子機器の中で最も高い値だが、1つ上の順位に登場するバッグの値の半分をほんのわずかに上回っているにすぎない。

(表1：6つの日常製品を購入する際に色を重視した回答者の割合)

3番目に、研究者たちは、回答者の色に関する認識と連想に注目した。その結果、赤には愛、危険、怒り、力といった様々な意味があることがわかった。緑は、自然、幸運、健康との関係をもたらしていた。さらに、白色は、均衡、健康、平穏と結びつけられていた。各色には異なる意味がいくつかあることを結果は示していた。

上記にまとめられている調査結果は、いかに色がドイツの消費者に影響を与えているかを説明するものだった。しかし、この影響は国ごとに異なるかもしれない。今日のグローバル化した世界では、国際的に製品を販売することがより容易になっている。原因の1つはインターネットの使用が増えたことにある。それ故、世界の他の場所にいる消費者たちが製品の選択において色を重視する度合いを考慮する必要がある。本文では次に、この問題を吟味することにしよう。

第四問B

～第四問B(広告文型問題) 解法のみ～

(1)まず3つの設問とその選択肢に目を通す。この手順はAと同じ。ただし

- ①何が問われているのか
- ②答えを出すのに必要な情報はなんなのか

を整理する。設問・選択肢の内容が複雑な場合は、要旨を簡単にメモ書きする。

(2)必ずしも問1から順に解いていく必要はない。簡単な設問から答えを出していけばいい。

(3)内容一致問題などは、(第四問の)Aと異なり、

- ①全ての選択肢のキーワードをチェックし、下線を引く。
- ②選択肢の内容が複雑な場合、余白にメモ書きをする。

などして、(問題文中に)対応箇所を探すための情報を整理する。

重要するに「広告文」タイプの問題は、解くのが「めんどくさい」。したがって、比較的解きやすい以下のタイプ設問から解くのがいい。

- ①金額・人数などを問う設問
- ②設問の情報のみから問題文中の対応箇所を予測できる設問

(4)問題文[広告文]を読む際には、まず最初に広告文の「見出し」を確認しておく。設問との対応箇所を素早く見つけ出すヒントがえられることが多い。それから、(問題文の)欄外部分に何らかの情報があれば、それも最初にチェックしておく。

(5)設問の対応箇所を問題文[広告文]中に見つけたら、選択肢と対照させて正解を出していく。

【全訳】

パパベアー料理学校：
父親のための料理コース

パパベアー料理学校は、ラルフ・ベアリソンによって1992年に設立されました。彼は、多くの父親は料理をしたくても、食事を用意する十分な時間がないことがしばしばあることをよく理解していました。彼は、美味しくて家族の健康に良い食事を短時間で作ることに自分の興味を分かち合いたいと考えたのです。パパベアー料理学校では、プロの料理人の指導のもとで様々な食事を作ることが学べ、家族や友人の羨望の的になります。以下の料理コースが5月の第1週から始まります。

料理コース	曜日	時間	コース料金
イタリア料理	火曜日	10:00-12:00	\$150
フランス料理	水曜日	9:00-12:00	\$250
日本料理	木曜日	15:00-18:00	\$250
中華料理	土曜日	17:00-19:00	\$200
日曜の家族の朝食*	日曜日	8:00-10:00	\$150

*10歳から15歳のお子様は、お1人につき100ドルで日曜の家族の朝食コースにお父様方と参加できます。

- ▶コースはすべて10週間です。
- ▶料金には食材すべてが含まれます。
- ▶包丁、フォークやスプーンなどの銀製食器、お皿は当校が支給します。

ご持参いただくもの

▶エプロンとタオル（エプロン・タオルセットを週6ドルで貸し出し、または当売店にて新品セットを50ドルでご購入できます）

▶空きっ腹！

パパベアー料理学校のウェブサイトで当校の設備や他の料理コースの詳細をお調べください。

コース料金
10%割引
パパベアー
料理学校

第五問

～第五問(主観型長文問題) 解法のまとめ～

- (1)第5問は、設問の順序とストーリー展開がほぼ一致している。
- (2)まず設問に目を通し、キーワードをチェックする。
- (3)第5問は、「全読み」タイプ、つまり基本的に全文を読まなければならないタイプの問題である。
①とはいっても、全文を構造分析的に(同じエネルギーできちんと精読的に)読むわけではない。キーワードを頭において、それが現れるまではサアッと、現れたらキチンと読む。
- (4)次に本文を読んでいく。基本は「読みながら解きながら」。
- (5)下線部の意味を問う設問に対する考え方は、第3問Aと同じ。つまり「論理」「指示語」「文脈」をヒントにする。解答を導く対応箇所は、大半は下線の前後にある。
- (6)一つの設問を解いたら、次の設問をチラ見してから本文[問題文]に戻るようにするといい。

【全訳】

惑星Xの探査日誌からの抜粋

1日目

我々の科学的発見の任務は続いており、報告すべき胸躍らせることがある。我々は生命を維持することが可能な惑星をととう発見したのかもしれない近くの惑星は、生命を維持するには熱すぎるか乾燥しすぎているかのどちらかだったが、この惑星は違うようである。緑色と茶色の斑点状の部分があるものの、その表面は大部分が青い液体で、ある種の白い物質が惑星の周りを移動しているように見える。

4日目

今や我々は惑星の軌道を回っている。我々の仮定は正しかったようだ！惑星の周りをいくつかの機械装置が回っており、それらのデザインはかなり複雑である。それらがある種の知的生物によって作られたものであること確かである。これらの機械は監視システムの一部であろうか。それらは我々の接近を知らせる警戒信号を発したのであろうか。いかなる脅威もなさそうなので、我々はそれらを無視して惑星にさらに接近することに決めた。それらの発明者が友好的であることを望む。

8日目

我々の生命を維持している貴重な液体で全体が覆われた我々の惑星とは異なり、この惑星の緑色と茶色の部分は、生命を支えるには乾燥しすぎている。青い部分は大部分が液状のH₂Oである。それは液体ではあるが、我々の故郷の惑星上にある液体とまったく同じではない。それでもなお、我々は生命を発見できるかもしれない。少なくとも、我々の装置によれば、この下に何らかの生き物が存在するようである。我々は直接観察を始める準備が整っており、まもなく飛び込むことになるであろう。私は非常に興奮しているので、今夜は眠れそうにない。

9日目

我々はこの未探査の液体の中に安全に突入することに成功した。我々の周りの風景は我々の惑星の風景によく似ており、柔らかい植物が穏やかに前後に揺らめいていた。我々はまた、薄

っぺらい、様々な種類の泳ぐ生物に気づいた。何とワクワクさせるのだろう！我々はこの惑星上に生命を発見したのだ！しかしながら、進歩した文明を生み出すことができるいかなる生物も見当たらない。腕がなければ、これらの遊泳生物は、たとえ賢くても、複雑な機械を組み立てることはできないだろう。この惑星のリーダー達は我々から身を隠しているのであろうか。彼らは我々に出会うことに不安を抱いているのであろうか。だから彼らは飛行物体を利用して宇宙を調べているのであろうか。我々が何らかの答えを見つけることができることを願う。

12日目

我々は海底に大きな物体が横たわっているのを見つけた。その長い本体は我々の宇宙船に幾分似ているように見えた。それは大変古びて傷んだ様子で鎮座していた。見たところ、それはもはや使われていないようである。それはこの惑星の古代文明が残した遺跡の一部なのかもしれない。

19日目

潜水して以来、我々はますます多くの珍しい生き物を発見している。我々は特に、外見が我々によく似た生物を発見して驚いた。体の上部は丸く柔らかかった。そのすぐ下には2つの大きな目と何本かの長い腕があった。それはすばやく逃げて、黒い雲状の物質を残して行った。それがこの惑星上の最も知的な生物かどうかはわからないが、新たな発見に対する我々の期待は増大し続けている。

39日目

今回の我々の探査はまもなく終了するだろう。我々は以前に発見したものに似た遺跡や見捨てられた物体をさらに発見したが、それらを作った生物のいかなる痕跡も見つかっていない。ひょっとするとこの惑星のリーダーたちは絶滅したのかもしれない。いずれにせよ、我々はこの惑星上の生命を見つけたが、これは非常に大きな発見である。我々はさしあたりこの惑星を離れなければならないが、調査を継続するためいつか必ず戻って来るだろう。我々は驚くべき報告を持って帰還するだろう。

40日目

我々は静かに海面に浮上し、次いで大気中に入った。まさに惑星を離れようとしていたとき、我々はたくさんの不思議な生物が乾燥した地殻の上にいるのを見た。何たる衝撃！我々、液体中に住む生物は、このような生物など想像したこともなかった！我々の船の液体の中で安全に浮きながら、我々は、我々の常識によって間違った結論に導かれていたことを悟ったのである。

第六問

～第六問(客観型長文問題) 解法のまとめ～

(1)第6問も、**設問の順序とストーリー展開が一致している。**

(2)本文[問題文]を読み進める前に、先に設問に目を通し、キーワード(と思われる語句)に下線を引いておく。

◎キーワードとは、主要品詞、つまり「名詞」「動詞」「形容詞」「副詞」など。中でも最大のキーワードは「名詞」。

設問が万一複雑な場合には、余白に要旨をメモ書きしておくのもいい(ただしあくまでメモ書き。これに時間をかけすぎないこと)。

(3)ここまでできたら、次に本文のまずここを読め。

①**第1パラグラフと最終パラグラフだけは第1文[冒頭文]と最終文。それ以外のパラグラフは第1文[冒頭文]のみをまず読む。**

◎第1パラグラフと最終パラグラフについては、2～3行程度の短い構

成のものならこの時点で(冒頭と最終文のみと言わず)全部読んでしまってもいい。
⊕冒頭文の内容が情報としてあまりに不完全な場合は、その直前・直後の英文も読むのもいい。

- ②逆接語で始まる英文(もしくは逆接語が挿入されている英文)、「私は思う」系のフレーズ(I think[believe]..., In my opinion など)のような語句を含む英文もあればそこも読んでおく。



+ ①逆接語で始まる(又は挿入された)英文
②I think[In my opinion...]などのフレーズを含む英文

それから、Bの設問の表中に、(そのパラグラフの)Content が示されている場合は、それを(対応パラグラフの冒頭文を読む前に)先に読んでおくといい。
(4)次に、この時点での情報で

- ①本文の主旨やテーマやタイトルなどを問う設問。 ⊕Aの最後の設問はこのタイプが多い。
②Bの設問。

が解けることが多い。

⊕Bの設問について、そのパラグラフの冒頭文を読んだだけでは答えを特定できない場合は、

- ①(そのパラグラフの)最終文も読んでみる。
②それでも答えを特定できない場合は、後回しにする。

(5)それ以外の設問についても、この時点での情報で解けるもの、また消せる選択肢がないかチェックしてみる。

(6)(部分読みでは)解ききれなかった設問については、もう一度キーワードを(この時点では選択肢も含め)チェックし、本文【問題文】中に対応箇所を探し出していく。⊕この時点では、選択肢も含めてキーワードをチェックし直す。

(7)その結果、あるパラグラフ【段落】を全読みしなけりばならなくなった場合は、

- ①基本は「読みながら解きながら」。
②(その段落を半分近く読んでまだ対応箇所が見つからなければ)その段落の半分で分割し、前半部の情報で解けないか、消せる選択肢はないか見てみる。

(8)下線部の意味を問う設問に対する考え方は、第5問と同じ。

(9)選択肢の先読みに関するアドバイス。

- ①選択肢が短い、又は読みやすい場合には、しっかり四つとも読んでおく。
②選択肢が長い、構造が複雑な場合には、キーワードに下線を引くだけにとどめる。
③設問だけで対応箇所を探す十分な情報が手に入った場合には、読まない。
⊕第6問は③タイプが多い。

④程度があまりに著しい[甚だしい]語(全て、必ず、絶対、唯一…)を含む選択肢は、不正解の可能性が高い(「極論不一致の原則」)。

(10)本文の対応箇所と正解の選択肢は、常に「同一内容異表現」。

表現方法の変化には、具体的には以下のようなものがある。

①表現[語句]レベルでの言い換え

- 1.単語同士、熟語同士の「言い換え」(同意語、反意語)
- 2.単語⇔熟語、句⇔節等の「言い換え」

②内容レベルでの言い換え

- 1.文法構造を転換しての「言い換え」(態の転換、仮定法⇔直説法、二重否定、原級・比較級⇔最上級等)
- 2.原因⇔結果での「言い換え」
(ex)「その国は大国の庇護の下に入った」＝「その国の平和は保たれた」
- 3.ある事実[行動]・心情を別の[裏返した]事実[行動]・心情での「言い換え」
(ex)「よく欠席していた」＝「あまり出席しなかった」
「男は嫌い」＝「女が好き」
◎このようなある事を裏返したような表現で言い換えるパターンが(同一内容異表現では)最も多い。
- 4.事実・行動を心情での「言い換え」(又はその逆)
(ex)「彼の手紙を読もうとしなかった」＝「彼が大嫌いだった」

【全訳】

- (1) 歴史は、科学技術とそれに関連する発見が、私達の世界の理解の仕方を変えてきたということ私達に教えてくれます。多くの技術革新による機器は、五感など私達に生まれつき備わっている能力の範囲や力を更に拡大してくれます。これらの機器のうち、多くのものは、私達が肉眼では見ることができないものを見えるようにしてくれます。不可視から可視へのこの変化は、世界に対する私達の理解力をとてつもなく増大し、私達の考え方に強い影響を及ぼしてきました。
- (2) 17世紀に、ある科学者は2つのレンズを、あるやり方で組み合わせることによって、物体を大きく見えるようにすることができると気づきました。彼はこの技術を利用して、最初の簡単な望遠鏡を作りました。これらの旧式の望遠鏡を利用することで、初期の科学者たちは月の表面を詳しく描写して、木星にはそのような衛星が少なくとも4つあることを確認することができました。そのとき以来、人々は可視距離を伸ばすさまざまな機器を発明し、そうして、地球のはるかかなたに存在する宇宙についての事実を明らかにしてきました。望遠鏡は、直接手の届く範囲を超えた事物に関して新しい見方を私達に提供し続けています。
- (3) その後、望遠鏡に似た原理を用いて、顕微鏡が開発されました。顕微鏡によって私達は小さすぎるために通常は見えない物体を観察することができます。顕微鏡をのぞくことは、科学者に全く新しい世界を開きました。顕微鏡が発明される前には、科学者はヒト組織の構造や、植物や動物の細胞を見ることができませんでした。これらのものを見たとき、科学者は、ひとまとまりになっていて分けることができないと考えられていたものの中には、実際はより小さな構成要素から成り立っているものがあることに気づきました。これらは、顕微鏡の助けがあって初めて目に見えるものになりました。今日では、電子顕微鏡のおかげで、私達は分子のような更に小さいものも調べることができます。このような進歩は、世界の事物の構成に関する私達の概念を変えてきました。
- (4) カメラの発明もまた、見えない世界を見えるものにしました。世界では、あらゆるものが変化しています。目に見えないほどの速度で変化するものもあります。カメラは、変化をさ

さまざまな時点で凍結させる力を私達に与えてくれる道具です。連続写真は、鳥が飛翔中にどのように動くか、運動選手がどのように走るかを明らかにしてきました。カメラはまた、とてもゆっくりとしたものであるために、通常は気づかないような変化を我々が見るのに役立ちます。たとえば数ヶ月、あるいは数年を隔てて撮られた同じ場面の写真を比較することで、社会がどのように変化しているかについて知見を得ることができます。これら以外にも、カメラが私達の世界に対する認識を変えてきた点が他にたくさんあります。

- (5) 19世紀後半には、新たに発見されたX線を用いた機械が、私達の物事に対する見方に革命的な変化をもたらしました。物体の表面だけを見るのではなく、私達は物体の中を、あるいは物体を通して見る能力を手にし、多くの事物の内部の要素を視界にとらえました。この能力は、仕事場では実用的で、実験室や博物館では有用で、大学では教育に役立つことが実証されました。最も重要な利用法の1つは、医学においてでした。医師はしばしば病気を診断したり、体内の問題を見つけたりするのに苦労しました。X線によって、医師は患者の体内を見て、どこに問題があるのか特定し、それを治療することができるようになりました。こうしたX線の使用は、診断と治療のための新しい理解と方法をもたらしました。
- (6) さまざまな技術革新による機器のおかげで、肉眼で見ることのできなかつた事物を観察することが可能になりました。これによって、周囲の世界についての私達の理解は著しく変化しました。1つ1つの技術的進歩が予測できないやり方で私達を変え、1つ1つの発見が世界についての私達の知識を増やしてくれます。前述の機器がそうしてきたのと全く同様に、新しい機器は、将来、私達の生活に影響を及ぼし続け、私達の考え方を変え続けるでしょう。